

2017年3月期第2四半期 決算概要

2016年11月9日（水）
株式会社 **力ネカ**

目 次

業績概要	1
四半期別 売上高・営業利益	2
セグメント別 売上高・営業利益	3
セグメント別 事業概況	4
業績予想の修正	8

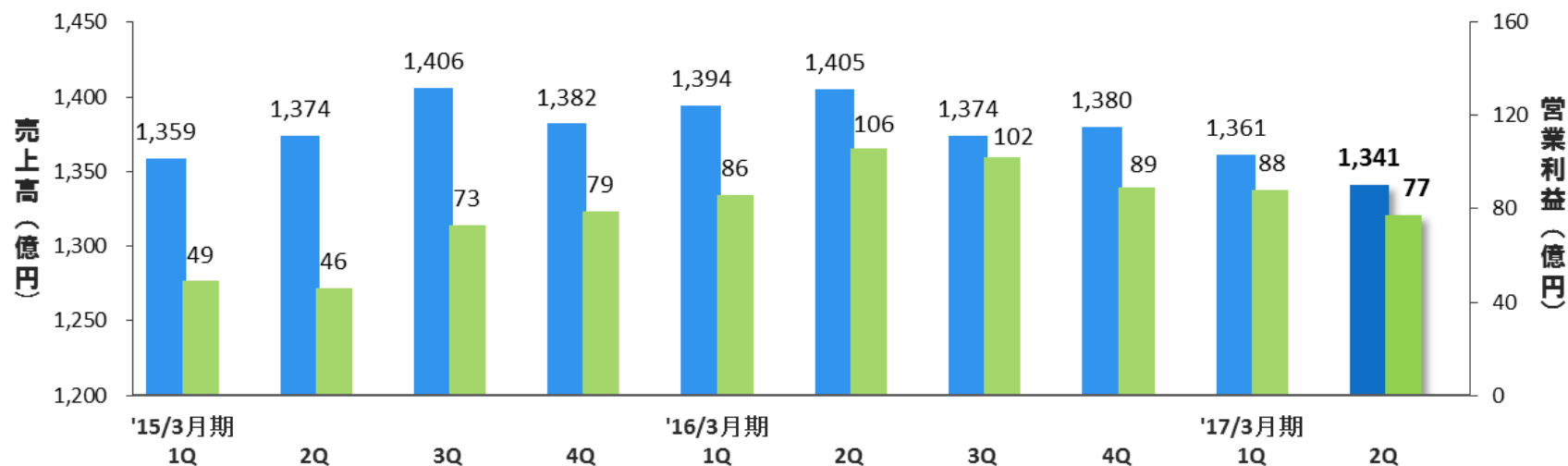
本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(単位：億円)

	2016年3月期 2Q累計	2017年3月期 2Q累計	増減	
			金額	%
売上高	2,798	2,702	△ 97	△3.5%
営業利益	192	165	△ 27	△14.2%
経常利益	158	140	△ 18	△11.2%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	99	91	△ 8	△7.7%
1株当たり四半期純利益	29.66円	27.56円		

- 販売の拡大や事業構造改革に努めたものの、アジア市場が回復せず、円高の影響を受け、減収減益。

四半期別 売上高・営業利益



(単位：億円)	2015年3月期				2016年3月期				2017年3月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	1,359	1,374	1,406	1,382	1,394	1,405	1,374	1,380	1,361	1,341
営業利益	49	46	73	79	86	106	102	89	88	77

セグメント別 売上高・営業利益

(単位：百万円)

	売上高				営業利益			
	2016年3月期 2Q累計	2017年3月期 2Q累計	増減		2016年3月期 2Q累計	2017年3月期 2Q累計	増減	
			金額	%			金額	%
化成品	52,568	46,056	△6,511	△12.4%	2,471	3,148	677	27.4%
機能性樹脂	47,555	53,487	5,932	12.5%	7,359	7,357	△2	△0.0%
発泡樹脂製品	33,459	31,941	△1,517	△4.5%	3,148	3,010	△137	△4.4%
食品	70,693	72,616	1,923	2.7%	900	1,946	1,046	116.2%
ライフサイエンス	30,067	28,453	△1,614	△5.4%	5,752	5,669	△82	△1.4%
エレクトロニクス	20,892	17,077	△3,815	△18.3%	572	△979	△1,551	-
合成繊維、その他	24,606	20,549	△4,056	△16.5%	8,708	6,552	△2,156	△24.8%
調整額	-	-	-	-	△9,717	△10,245	△527	-
計	279,843	270,182	△9,661	△3.5%	19,195	16,460	△2,734	△14.2%

- 化成品は、減収となるもスプレッドの維持や塩ビ系特殊樹脂の販売拡大により増益。食品は、事業構造改革が進み、増収増益。
- 機能性樹脂は、円高の影響を受けたものの、主力製品の拡販が進み利益は前年並み。ライフサイエンスは、医薬品・機能性食品の拡販により利益は前年並み。
- エレクトロニクスは、スマートフォン市場の立ち上がりの遅れや円高の影響を受け、減収減益。合成繊維は、アフリカ市場での頭髮分野向けの販売は堅調ながら円高の影響を強く受けた。

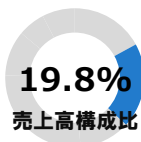
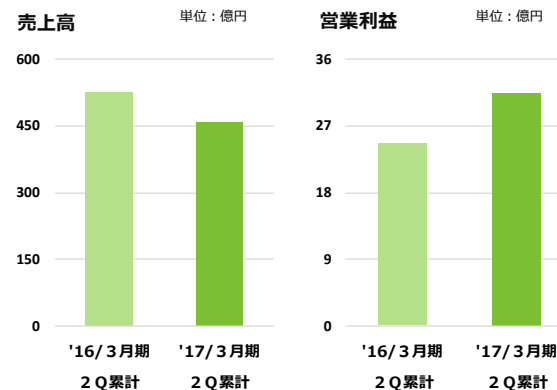


化成品

売上高 461億円 (対前年同期 12.4%減) ↓

営業利益 31億円 (同 27.4%増) ↑

- 塩化ビニール樹脂は、アジア向け販売数量が増加。円高と原料価格下落の影響を受けて、売上高は減少したものの収益は改善。
- 塩ビ系特殊樹脂は、塩ビペースト樹脂の販売数量がアジア向けを中心に増加した一方、塩素化塩ビはインド向けの販売が低調に推移。
- か性ソーダは、国内需要が低調に推移する中、コスト低減に努め採算が改善。

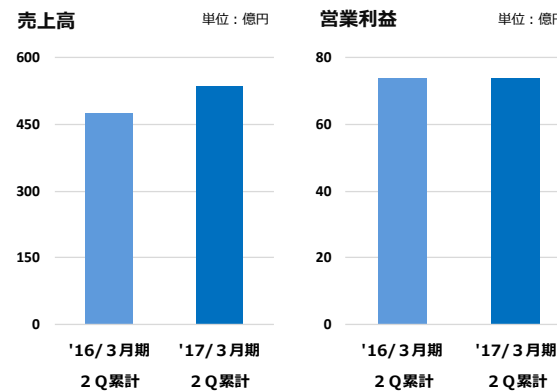


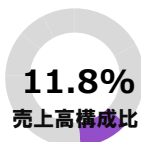
機能性樹脂

売上高 535億円 (対前年同期 12.5%増) ↑

営業利益 74億円 (対前年同期並) →

- モディファイヤーは、円高の影響を強く受け売上高は減少したものの、製品差別化力の向上と非塩ビ用途向けなど新用途の拡販が進み、海外市場を中心に販売数量は着実に増加。
- 変成シリコンポリマーは、ユニークな品質特性が広く認知され、建築用途に加え工業用途での他素材からの置き換えが進み、欧州・米国・アジアの各市場において販売数量が増加。



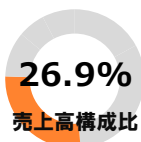
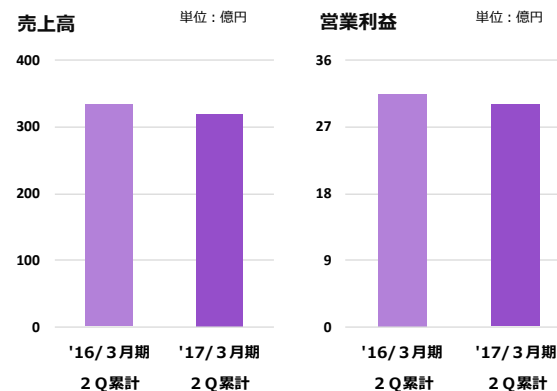


発泡樹脂製品

売上高 319億円（対前年同期 4.5%減）↓

営業利益 30億円（同 4.4%減）↓

- 発泡スチレン樹脂・成型品は、農水産分野における需要が低調に推移。
- 押出法発泡ポリスチレンボードは、住宅関連市場の緩やかな回復により販売が堅調に推移。
- ビーズ法発泡ポリオレフィンは、自動車分野向けの販売が拡大。

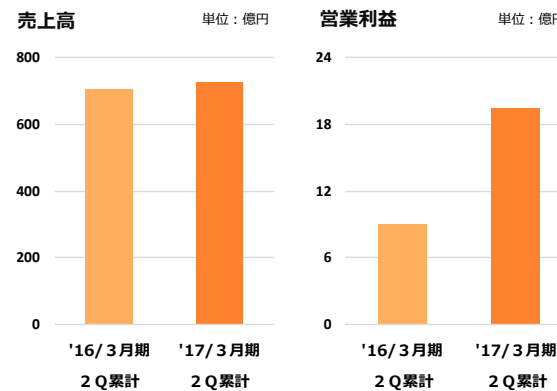


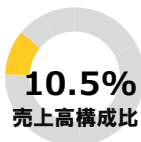
食品

売上高 726億円（対前年同期 2.7%増）↗

営業利益 19億円（同 116.2%増）↗

- 国内需要の伸び悩みと低価格志向が継続する中で、消費者のニーズを先取りした新製品の開発・販売に注力し、製品ミックスの高付加価値化を進めている。
- 夏場過ぎの天候不順の影響を受けたが、サプライチェーン全体の強化・効率化を目指した事業構造改革が進み、収益性が改善。

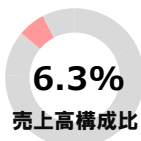
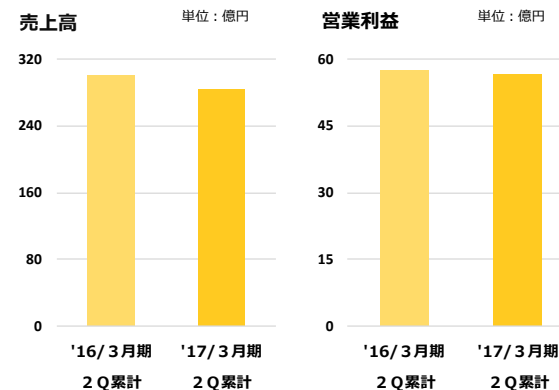




ライフサイエンス

売上高 285億円（対前年同期 5.4%減） ↓ 営業利益 57億円（同 1.4%減） ↓

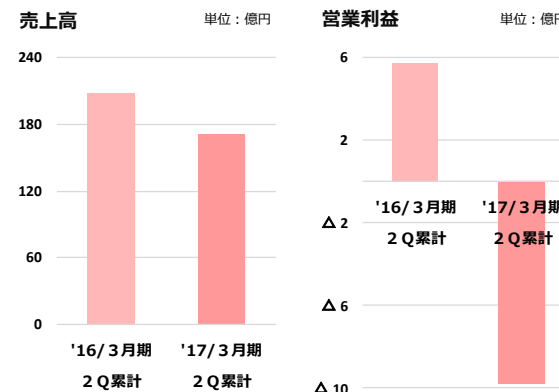
- 医療機器は、血液浄化事業の販売が低調に推移したが、インターベンション事業は他社との共同事業の拡大などにより米国向けの販売数量が増加。国内市場では償還価格改定の影響を受けたが、新領域への事業拡大にも注力。
- 医薬品は、APIやバイオリクス分野における販売が順調に拡大。
- 機能性食品素材は、米国を中心に還元型コエンザイムQ10の販売数量が着実に増加し、日本でも機能性表示食品制度により当社製品の認知が進み、販売が拡大。

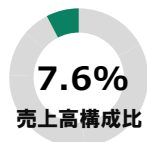


エレクトロニクス

売上高 171億円（対前年同期 18.3%減） ↓ 営業損失 10億円

- 超耐熱ポリイミドフィルム、超高熱伝導グラファイトシートは、新たな牽引役である高機能品や新製品の販売が拡大したが、全般的なスマートフォン市場の立ち上がりの遅れや円高の影響を受けた。
- 太陽電池は、大手ハウスメーカー向けの販売数量が増加するとともに、引き続き事業構造改革が進み採算が改善。



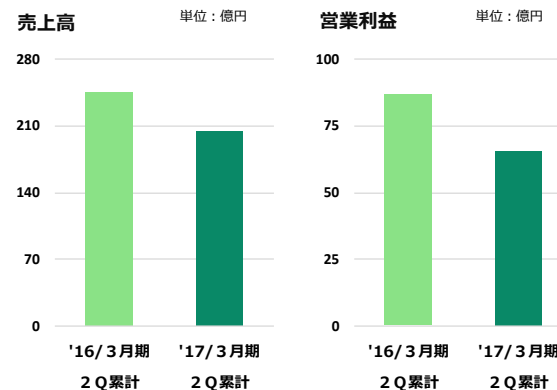


合成繊維、その他

売上高 205億円（対前年同期 16.5%減）

営業利益 66億円（同 24.8%減）

- アフリカ市場での頭髮分野向けの販売は引き続き堅調に推移しているものの、アジア市場の回復遅れの影響を受けた。
- 高付加価値品の拡販やコストダウンに努めたが、円高の影響を強く受けた。



- 当第2四半期の業績は、急速な円高の進行や、エレクトロニクス市場におけるスマートフォン向け需要の低迷などによる影響を強く受けた。
- 引き続き、技術による製品の差別化、コストダウン、事業構造改革の加速により収益の改善に努めているが、今後の見通しについては、円高の継続、アジアの景気回復の遅れ、海外の政治情勢の影響など不透明感が強いことから、通期連結業績予想は前回予想を下回る見込み。

(単位：億円)

	2017年3月期			2016年3月期 実績
	前回発表予想 (5月12日)	今回修正予想	増減	
売上高	6,000	5,600	△ 400	5,552
営業利益	420	385	△ 35	382
経常利益	380	340	△ 40	330
親会社株主に帰属 する当期純利益	230	210	△ 20	210
1株当たり当期純利益	69.35円	63.28円		62.98円

【2017年3月期第3四半期以降の前提条件】 為替レート：100円/米ドル、110円/ユーロ 国産ナフサ価格：34,000円/KL

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

